

大阪大学総合学術博物館 大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム

記憶の劇場II 展覧会



2018.2.27^火 → 3.16^金

[開館時間] 10:30~17:00 (入館は16:30まで) [休館日] 日曜日 入場無料

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

阪急電鉄 宝塚線 石橋駅 (徒歩10分)



主催：大阪大学総合学術博物館
共催：大阪大学文学研究科
連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
大阪新美術館建設準備室
公益財団法人吹田市文化振興事業団(吹田メイシアター)
豊中市都市活力部文化芸術課
能勢浄るりシアター
兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)
公益財団法人益富地学会館
助成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」
協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

文化芸術ファシリテーター育成講座事務局
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13(大阪大学会館内)
大阪大学総合学術博物館
mail: yamazaki@museum.osaka-u.ac.jp
お問い合わせフォーム: <https://kiogeki.org/contact>

ごあいさつ

この度は、展覧会「記憶の劇場Ⅱ」にご来場頂きまして誠にありがとうございます。

この展覧会は、平成29年度文化庁「大学を活用する文化芸術推進事業」に採択された「『記憶の劇場Ⅱ』—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム」の1年間の成果を皆様にご覧頂くものです。

この事業は昨年度に続き、本年で2年目を迎えます。昨年度の経験を踏まえ、いっそう充実した1年を過ごすことができましたと自負しております。昨年同様に、今年も7つの個別のプログラムがあり、受講生はそれぞれにプログラムに参加して1年間の講座を参加してまいりました。

その取組は、大阪、鉱物、音楽、演劇、ドキュメンテーション、芸能などと扱うジャンルは異にしていますが、共通しているのは「記憶」の一点です。私たちの記憶、過去の先人たちの記憶、また地域や共同体の記憶と、記憶と言っても様々です。それをどのように呼び覚まし、生きたものにし、これから役に立ていけるのか、私たちは受講生の皆さんと一緒に考え、実践をして参りました。

このプログラムを通して、私たちの博物館がすこしでも活気と希望に満ちたものになったのだとしたら、これ以上の喜びはございません。1年間の受講生皆さんの努力と熱意の成果をどうぞご覧下さい。

大阪大学総合学術博物館長
永田 靖

連携機関アドバイザー

石橋 隆	公益財団法人益富地学会館研究員
尾西 教彰	兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)業務部副課長
菅谷 富夫	大阪新美術館建設準備室研究主幹
古矢 直樹	公益財団法人吹田市文化振興事業団(吹田メイシアター)常務理事・事務局長
松田 正弘	能勢浄るりシアター館長
宮地 泰史	あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール企画事業担当チーフ・マネージャー
本山 昇平	豊中市都市活力部文化芸術課

事業担当者

永田 靖	大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科(事業推進者)
伊東 信宏	大阪大学文学研究科(事業推進者)
橋爪 節也	大阪大学総合学術博物館
上田 貴洋	大阪大学総合学術博物館
伊藤 謙	大阪大学総合学術博物館
横田 洋	大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科
渡辺 浩司	大阪大学文学研究科
古後奈緒子	大阪大学文学研究科
山崎 達哉	大阪大学総合学術博物館・事務局
濱村 和恵	デザイン

活動1 「記憶の劇場Ⅱ」オープニング講座、セミナー「大阪の記憶と未来」・博物館オリエンテーション、クロージング・シンポジウム

オープニング・セミナー

日時：2017年7月22日(土)

会場：大阪大学学生会館21世紀懐徳堂スタジオ

セミナー「大阪の記憶と未来」・博物館オリエンテーション

日時：2017年9月16日(土)

会場：大阪大学学生会館21世紀懐徳堂スタジオ、大阪

大学総合学術博物館待兼山修学館

展覧会「記憶の劇場Ⅱ」

会期：2018年2月27日(火)～2018年3月16日(金)

会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館

クロージング・シンポジウム

日時：2018年3月10日(土)

場所：大阪大学学生会館21世紀懐徳堂スタジオ

活動7 ドキュメンテーション／アーカイヴ

担当：古後奈緒子

活動⑦は昨年に続き、カバン一つで海を渡った人々の記憶と歴史に触れる二つのパフォーマンス作品への異なるアプローチで、「ドキュメンテーション／アーカイヴ」について考えました。

vol.1 では、神戸・新長田で様々なエスニックコミュニティと、ダンスを通じて交流を続けてきた劇場が、現代劇の作家と在日コリアンのハルモニたちに取材したパフォーマンスのドキュメンテーション。レコード機材を使えないリサーチ現場から、受講生たちは何を持ち帰り、何に置き換えて伝えようとするのでしょうか。

vol.2 では、大阪を舞台に都市論を展開する中で移民に焦点をあててきた劇作家が、南米ツアーを機に日本から海外へ向かった人々、特に笠戸丸で出帆したブラジル移民に思いをはせて創作した作品の台本出版。書物に仕込んだ身体化の種は、展示空間のどこにどう置いたら、芽を出してくれそうでしょうか。

活動6 旅・芸のTELESOPHIA

担当：山崎達哉

時間的に遠い(=TELE)過去から現代まで伝えられている様々な芸には、豊富な知識やわざ(=SOPHIA)があります。私たちは、阿波木偶箱まわしの芸、能勢人形浄瑠璃、西宮のえびす舞の3つの芸を鑑賞し、さらにこの3者とともに、「劇場とは何だろう?」というテーマでトークイベントを開催しました。

劇場があることで、創造性が発揮され易くなることやコミュニティの活性化が図れることがわかりました。一方、野外での上演では、満天の星々の下で、観客は人形芝居の世界に没入しつつ自然とともに在ることの幸福を感じることができます。また、信仰を伴う芸は、劇場外の方が宗教性は失われず、芸と近い関係を築くことができるように思えました。

これらの3つの伝統的な芸能の素朴な力強さに新鮮な驚きを感じ、カタルシスの効果すら体験しました。太夫の独特の抑場のある語りや、箱廻しの力強い謡いのリズムに、観客は心を捉えられます。ホメロスのような口承文学もこのようにして語り継がれてきたのではないのでしょうか。これらの芸能が現代に伝わる理由もそこにあるのではないのでしょうか。

活動4 三輪眞弘『新しい時代』の再演

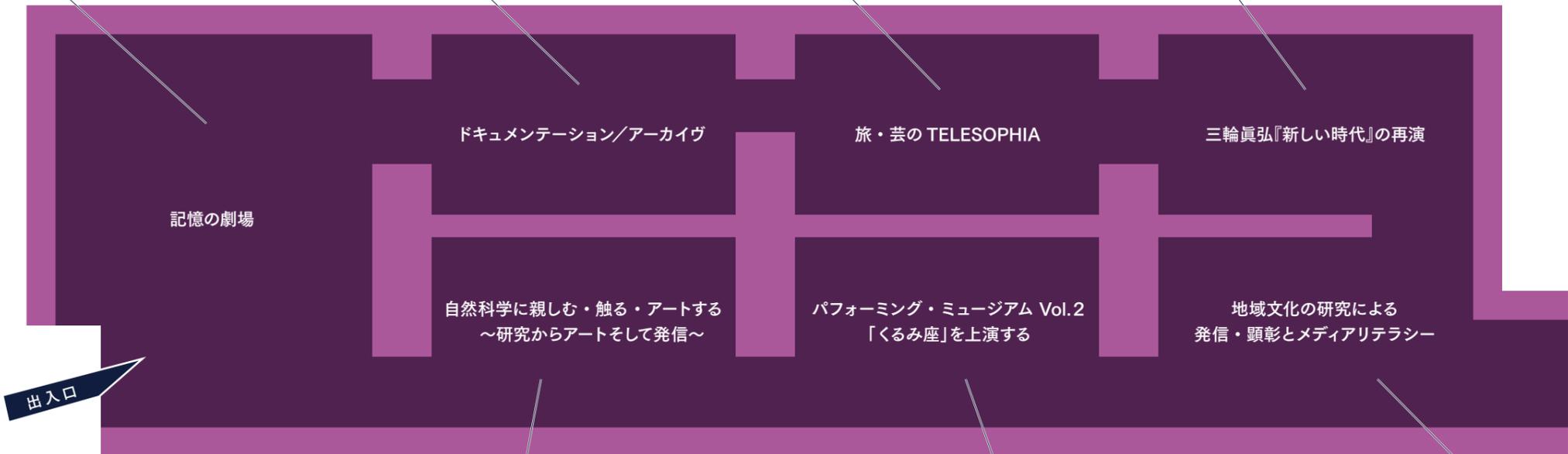
担当：伊東信宏

2017年12月、作曲家・三輪眞弘と映像作家の前田真二郎によるモノローグ・オペラ「新しい時代」が名古屋と大阪で再演されました。初演は2000年4月。当時一般社会に浸透したインターネットなどのデジタルな世界や、社会の根幹を揺さぶるような事件や天災が相次いだ社会的状況、宗教という人間の本質的な部分に関わる問題をテーマとし、14歳の少年を主人公に、ネット上に存在する「神」のメッセージを受け取り、自らの存在を広大なネットに残した後、物理的身を消去するという衝撃的な物語です。

初演時からすると社会状況は大きく変わりました。ネットワークは、日常の中に溶け込み、「誰か」と容易に繋がれるようになりました。「個」がネットワークの中へと融解し、現実とは違う自分が、現実よりアクチュアルに感じられる世界は、まさにこのオペラの内容に重なります。

今回、私たちは、この先鋭的なモノローグ・オペラのリハーサルから大阪公演までを追いました。本展示では、「少年の言葉、神の旋律」にスポットを当て、作品の一部を紹介します。

なお、この上演について、3月4日(日)に上映会も開催いたします。



活動3 自然科学に親しむ・触る・アートする ～研究からアートそして発信～

担当：上田貴洋、伊藤謙

地球が誕生してから、何度も地震や火山の噴火、大雨などの自然現象が起こり、生き延びた生物もいれば、絶滅した生物もありました。気の遠くなるような時間の中、人類が誕生し、高度な文明を築いたあとも、自然は減びと再生を繰り返しています。人類は自然から資源を得て加工し、道具として活用しています。

人類はかつて五感を研ぎ澄まして、未知のものへの理解を深めていきました。鉱物に対しても、見たり、触ったり、叩いたり、におったり、あるいは舐めたりすることで、物言わぬ鉱物がたどってきた悠久の歴史を体感したのかもしれない。我々にもそういったかすかな瞬間があるとすれば、それははるかな祖先たちの名残や本能から受け継がれてきたものなのかもしれません。

五つの感覚の一つひとつを静かに研ぎ澄ませ、想像をめぐらせながら、鉱物の世界をごゆっくりお楽しみください。

活動5 パフォーミング・ミュージアム Vol.2 「くるみ座」を上演する

担当：永田靖、横田洋

「くるみ座」とは戦後直後、女優・毛利菊枝によって京都で創設された新劇の劇団です。2007年に解散するまで関西を地盤とする俳優・演出家・劇作家を育て、戦後の関西新劇をリードしてきました。

私たちは、くるみ座解散後、博物館に寄託された膨大な関係資料を掘り起こし紐解き、「くるみ座」の歴史とそれにまつわる人々の記憶を考察しました。紐解いていくうちに明らかになるくるみ座の影響力の大きさに殊のほか感嘆しました。それはまるで、足元的地中に眠っていた宝箱を発見したような感動でした。

今回、埋もれている「くるみ座の記憶たち」を呼び覚ますべく、くるみ座稽古場を資料に基づき再現し、関係者へのインタビュー・写真・資料を展示します。また、昨年12月に上演した『豆の波音』(構成・演出山口浩章)のダイジェスト編集版をビデオ上映します。

長い歴史を持つくるみ座の全てはこの場だけでは表現し切れませんが、訪れた皆様に、私たちが学び受け取った感動を、少しでもお伝えできれば幸いです。

活動2 地域文化の研究による 発信・顕彰とメディアリテラシー

担当：橋爪節也

歴史と文化ある都市ながら大阪は、マスコミなどでも過度の“おもしろイメージ”で語られがちですが、実際はどのようなのでしょうか。

街全体がミュージアムという「エコ・ミュージアム」の考えから、今年は、「橋」を見つめ直すことで、「八百八橋」と謳われた水都大阪の魅力を再発見します。調査クルージングを2回行い、第1回は「水の回廊」と呼ばれる堂島川、東西の横堀川、道頓堀川を巡って、船場、島之内など古き大阪を水上から観察します。第2回は大正区の港湾地区を目指し、橋梁の見本市会場ともいえる巨大な橋の姿に圧倒されました。

この体験を踏まえ、参加者が主体的に大阪の「橋」と向き合い、それを魅力的かつ個人的にアピールする、様々なアイデアが出ました。

“橋梁愛”にあふれたプロジェクトが冊子や映像となって、大阪の魅力をあらためて引き出します。